

令和6年12月13日
(2024年)

保護者のみなさまへ

吹田市立千里第三小学校
校長 江下 毅

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和6年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

多くの項目(設問)で平均正答率は全国と比べ上回り、良好な結果でした。

- 1.「話すこと・聞くこと」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する問題で無解答率が高く、課題が見られました。
- 2.「読むこと」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることや、登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとにとらえることについてはできていると考えられました。
- 3.「書くこと」の領域では、平均正答率が全国値をやや下回りました。目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られました。
- 4.「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られました。
- 5.「情報の扱い方に関する事項」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し適切なものを選択することについては、できている児童が多く、知識及び技能の学習指導が活かされています。
- 5.「我が国の言語文化に関する事項」の領域では、平均正答率が全国値を上回りました。読書が、自分の考えを広げることに関わりつつ気づいている児童が多く、言語に対する興味・関心を高める指導が活かされています。

●国語科における今後の指導改善点について

正答率が全国(公立)を下回った唯一の問題が「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く」をみる記述問題でした。

事実と感想、意見とを明確に区別せずに、事実を自分の考えのように書いてしまった児童が多かったです。取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているかどうかを振り返り、事実と考えとの関係を明確にできるようにするために、内容に注目して、文章全体に一貫性があるかを確認したり、文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同して書いていないかを確認したりする場面を設定する活動に取り組んでいきます。

●算数《概要》

すべての項目(設問)で平均正答率は全国値をすべて上回り、良好な結果でした。

1. 「数と計算」では、平均正答率が全国値を上回っていました。示された情報を基に、表から必要な数値を読み取り、式に表し、基準値を超えるかどうかを判断する問題では、全国平均を上回ってはいるものの、同じ領域の問題と比べて無回答率が多く、課題が見られました。
2. 「図形」では、見取り図、展開図、体積、角柱を構成する要素などを考察する問題が出題されました。正答率は全国値を上回ったものの、球の直径の長さで立方体の1辺の長さの関係をとらえて、立方体の体積を求める問題では、課題が見られました。
3. 「変化と関係」では、平均正答率が全国値を上回りました。伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを、式や言葉を用いて説明する設問では平均正答率が全国値を上回っていましたが、他の設問と比べて正答率に課題がみられました。
4. 「データの活用」では、複数の棒グラフを読み取り、条件に当てはまるかを言葉と数を用いて記述する設問が出題されました。正答率は、全国値をやや上回ったものの、他の問題に比べて高い無回答率を示すなど課題が見られました。

●算数科における成果と今後の改善点について

他の設問と比べて正答率が低かった問題の傾向は、記述式の問題でした。必要な示された情報を基に判断し、その理由を書いたり、言葉や数を用いて記述したり、なぜ条件に当てはまるかを記述したりする問題などです。

解決過程を振り返り、概念を形成したり体系化したりする力をつけるために、これからも基礎基本の定着はもちろん、今後も解答を導くまでの過程の楽しさや大切さを学ぶことのできる課題設定や各場面で言語活動を充実した授業展開を行い、思考力・判断力・表現力の向上に努めた教材研究と学習指導に取り組んでいきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・学習塾などでの勉強時間を含めた家庭学習時間は平日・土日ともに全国値を大きく上回りました。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」に対し、肯定的な回答をする児童が、全国値を下回りました。

【自己肯定感】

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対しては、全国値を上回りました。
- ・「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」という問いに対しても、全国値を上回りました。

【教科・学習について】

- ・「学校に行くのは楽しい」と回答する児童は全国値を上回りました。
- ・「授業で ICT 機器をどの程度使用しましたか」などの ICT に関わる項目は全国値を大きく上回りました。
- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の問いに対しては全国値を上回りました。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対し、肯定的な回答をする児童が全国値を下回りました。

【地域や社会に関わる活動の状況について】

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対し、肯定的な回答をしている児童が全国値を下回りました。

3 今後の取り組み

本校の児童は、基礎基本の学力は身につけているものの、それらの知識を活用したり、自分の考えを記述したりする問題になると正答率が下がり、無回答率が高くなる傾向が見られました。

今年度は「子どもの主体的な学びのある授業づくり」をテーマに授業研究を進めています。本校の教育目標「ともに学び ともに育つ」にあるように、友だちとともに学ぶ中で考えを広げ、一人ひとりの主体性をさらに高められることのできるような指導を進めてまいります。

また、生活環境や学習習慣等の調査結果を踏まえ、学級活動や委員会活動、異学年交流等の子ども同士が関わり協力し合う機会を通し、他者への思いやりを育める場面を意識的に作っていきたいと考えています。

併せて、道徳の授業やいじめ予防授業での学びを学校生活の中で深める機会を積極的にとらえ、いじめを許さない心を育んでいきたいと考えています。

今後も地域や家庭の協力を得て、他人を尊重する気持ちや態度を育めるような学校づくりを目指してまいります。よろしくお願いいたします。